



1892

**世界初のミニッツ
リピーター・ウォッチ**
腕時計が普及しはじめた
この年、世界初のミニツ
ツリピーター・ウォッチ
の開発・製作に成功。



1875

**ジュール・オーデマと
エドワール・ピゲ、
オーデマ ピゲ社を設立**
当時、時計師として最高
の地位である「仕上げ職
人」だった2人がル・ブ
ラッシュにて創業した。



1910年に完成したル・
ブラッシュの工場。今は
「オーデマ ピゲ博物館」。

1909

**究極のグランド
コンプリケーション・
ポケットウォッチ**
英国・ロンドンのサー・
ジョン・ベネットのため
に製作された、グラン&
プチソヌリ、ミニツツリ
ピーター、クロノグラフ
を搭載する複雑時計。



1986

**世界初の薄型自動巻き
トゥールビヨン・ウォッチ**
世界最小のケースを持つ、
世界初の薄型自動巻きト
ールビヨン腕時計を製
作。手の込んだ、美しい
文字盤にも注目！



1946

**世界最薄の
手巻きウォッチ**
わずか1.64mmという極薄
の手巻きキャリバーを發
表。それを搭載した世界
最薄ウォッチを製作。



1994

**究極のグランド
コンプリケーション・ウォッチ**
グラン&プチソヌリ、2
種類の音色で時を知らせ
るクォーターリピーター
を搭載する、世界初のコ
ンプリケーション・ウォ
ッチを開発。それまでは
懐中時計でしか存在しな
かった超複雑腕時計。



試作品の前に、新しいキャリバーについて話し
合うジュール・オーデマの孫、ジャック・ルイ・
オーデマ (右) とエドワール・ピゲの息子、ボ
ール・エドワール・ピゲ (左)。(1953年)

Now!

**最新モデルは
レースカーから**

さらに力強く、モダンに
変身した「ロイヤルオー
ク オフショア」の最新作
「グランプリ」には、最新
テクノロジーがギッシリ
と詰まっている。



1993

**「ロイヤルオー
ク オフショア」誕生!**
ロイヤルオークのスポ
ーツ色をさらに強めたコレ
クション「ロイヤルオー
ク オフショア」登場!



1972

「ロイヤルオーク」デビュー!
船窓のデザインをベゼル
にあしらった「ロイヤル
オーク」は、今なお世界
中で大人気。当時はステ
ンレススティールにもか
かわらず超高価なスポ
ーツ・ウォッチだった。



Now!

**自社ムーブメント
「cal.3120」搭載**

世界初のコンセプト、ラ
グジュアリー・スポーツ
ウォッチの市場を成功さ
せた「ロイヤルオーク」
に、待望の自社製キャ
リバーが搭載されたのは20
05年のこと。



名門と呼ばれる時計ブランドは数
あれど、冠する名と同じ創業者一族
が今も経営するブランドは少ない。
多くが投資家や資産家の所有になっ
ているからだ。開発に莫大な投資が
必要な機械式時計業界への、潤沢な
資金を持つ彼らの参入は悪いことで
はない。しかし、長期的視野が必要
なブランド戦略に創業者一族が携わ
ることの利点もまた、計り知れない。
1875年、当時最高の技術を持
つ2人の時計師が立ち上げた「オー
デマピゲ」は、今なお一族が運営す
る数少ない時計ブランドの1つ。同
族経営だからこそその目の利益に囚
われない名譽を重んじる製品開発で、
時計史に残る功績を上げてきた。
そこに一貫するのは「アヴァンギ
ヤルド」精神だ。普通の経営者の感
覚では到底できない思い切った製品
作りや、長年月を要する新技術開発
に積極的に取り組んできた。だから
こそ今日の最高峰ブランドとして認
められてきた。
人気の「ロイヤルオーク」はその
象徴だ。発表された1972年当時
このモデルは、ビス留めベゼルに代
表されるアヴァンギャルドなデザイ
ンと手の込んだ作りにより、ステ
ンレス製にもかかわらず金時計より高
価だった。普通なら企画段階でお蔵
入りになりそうなものだが、オーデ
マピゲはこのスポーツ・ウォッチを
世に出した。そしてラグジュアリー
・スポーツウォッチという新たな市
場を創出した。
どんな古典も誕生した時はアヴァ
ンギャルドだった。伝統は前衛のみ
が作る。オーデマピゲの歴史が、そ
のことを身をもって証明している。



タグ・ホイヤー
カレラ 1887 クロノグラフ

話題の自社ムーブメント「キャリバー 1887」を搭載するカレラ・シリーズの新作。文字盤は縦配列のインダイヤルにもかかわらず、立体感のあるアップライトのインデックスなどのディテールにより、初代モデルを彷彿させる。自動巻き、ステンレススチール・ケース&ブレスレット。ケース径41mm、100m防水。9月発売予定 39万9000円。

創業150周年を迎えたタグ・ホイヤーの注目新作!

クロノグラフの新定番!

スイス製スポーツ・ウォッチの名門、タグ・ホイヤーは、今年で創業150周年を迎えた。

その記念すべき年に登場した新作が「カレラ 1887 クロノグラフ」だ。

最新カレラが登場するに至るまでの歴史的背景、

そして電気自動車「テスラ」やコンセプト・ウォッチ「ペンデュラム」など

今年のタグ・ホイヤーのトピックスとともに新作の魅力を紹介する。

※=柴田 充

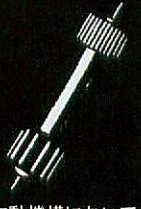
カレラは進化する!

右 / 初代カレラは1964年に誕生した(生産終了)。手巻き式でスモールセコンドと30分積算計のふたつのインダイヤルを搭載する。中右 / 2002年に登場した自動巻きクロノグラフ、12時間積算計をくわえ、3インダイヤルになった。2007年までクラシックラインとして生産が続けられた(生産終了)。中左 / カレラ誕生40周年にあたる2004年に現行の自動巻クロノグラフ タキメーターが登場した。縦配列のインダイヤルに、ベゼルには初のタキメーターをくわえ、現代のスポーツ・クロノグラフのベンチマークとなった。左 / 新作1887 クロノグラフ。細部は熟成進化を遂げつつ、カレラの系譜にあることがわかる。



1887 振動ピニオン

クロノグラフの作動機構においていまでも主流となっている「振動ピニオン」は創業者エドワード・ホイヤーが1887年に発明し、特許を取得した。自社の「キャリバー1887」はこの振動ピニオンを新設計し、偉業に敬意を表する。ネーミングもここに由来する。



1996 カレラ復刻

初代カレラのイメージを受け継ぎ、1996年にカレラが復刻された。レマニア製の手巻きムーブメントを搭載、3インダイヤルのノン・カレンダー仕様で、12時位置には当時のホイヤーロゴを掲げる。これがきっかけとなり、人気が再燃。2002年まで生産が続けられた。



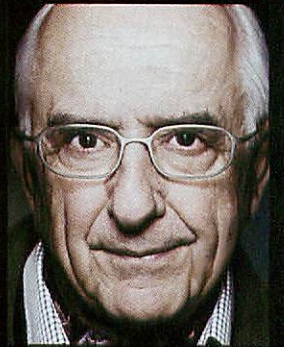
2004 カレラ 自動巻 クロノグラフ タキメーター

40周年を迎えた2004年にカレラはフル・モデルチェンジをはたした。クロノグラフの新たなスタイルとして大ヒットし、多くのフォロワーを生んだ。ステンレススチール・ケース&ブレスレット。ケース径41mm。36万7500円。



1969 クロノマティック

タグ・ホイヤー(当時ホイヤー社)はじめ、4社の共同開発で1969年に世界初の自動巻きクロノグラフムーブメントが誕生した。ケース・サイドの左側に配置されたリュウズを特徴にし、モナコ、オウタヴィア、カレラの3モデルに搭載された(生産終了)。



1964 ジャック・ホイヤー

伝説のレースに着想を得て、1964年にカレラの名をつけたのが現在タグ・ホイヤーの名譽会長を務めるジャック・ホイヤー氏だ。直系4代目にあたり、歴代の代表作を手がける一方、モーターレーシングとの結びつきを強化し、現在のタグ・ホイヤーの礎を築いた。

「かれこれ5年以上取り組んできた技術ですからね。昨年はモナコ40周年でV4が発表できたし、幸運です。もしかしたら磁力で幸運も引き寄せたのかもしれない」と微笑む。今年、ペンデュラムは話題のEV、テスラとともに世界を巡る。それも走り続けるタグ・ホイヤーにふさわしいユニークなプロジェクトだ。

「初代カレラを手がけたジャック・ホイヤー氏が再び監督しました。まるでタイムスリップして、名作誕生の瞬間に立ち会ったような感覚でした。ね。オリジナル・カレラのスピリットに導かれた素晴らしいデザインになった。そこが嬉しいですね」

伝統を尊重する一方で、未来へのアヴァンギャルドな取り組みも行っている。それがヒゲゼンマイのない磁性式脱進機を備えたペンデュラム・コンセプトだ。

今年のパール・ワールドでタグ・ホイヤーのCEO、ジャン・クリストフ・ババン氏は例年にも増してエキサイトしていた。それもそのはず、創業150年という記念すべき年なのだから。「歴史的なタイミングに立ち会えてとても興奮しています」と率直にいった。

新開発の自社ムーブメント「キャリバー1887」は、技術のルーツともいえる振動ピニオンを新設計し、高級クロノグラフの証であるコラムホイールや高効率の両方向巻き上げ方式を採用する。この最新鋭ムーブメントの搭載第1号に選ばれたのがカレラだ。なにして40年以上のロングセラーを誇るブランドの象徴であり、そのスタートを飾るにふさわしいモデルはこれをおいてほかにない。

2010

テスラ・ロードスター

創業150周年を祝したワールド・エキシビション「先駆者たちの冒険旅行」が現在開催中だ。これはタグ・ホイヤーの歴史的な名作やタグ・ホイヤー テスラ ロードスターが展示されるもの。スイスで開催されたキック・オフ・パーティには、CEOのジャン・クリストフ・ババン氏と名誉会長ジャック・ホイヤー氏の呼びかけに、アンバサダーのレオナルド・ディカプリオがかけつけた。日本では東京ミッドタウン・アトリウムにて7月9日～11日まで開催される。



タグ・ホイヤーのコーポレートカラーのグリーンとレッドをアクセントにしたテスラ・ロードスターが世界を巡っている。センターコンソールにはストップ・ウォッチ、リア・シェルフ上には今春発表されたばかりの「タグ・ホイヤーベンデュラム・コンセプト」を載せる。



8時位置にある新開発の脱進機。ブリッジに支えられたアーム状のテンフの底部にある振り座に4つの磁石を埋め込んでいる。同じく磁石を配した楕円状の周縁部分との間に生まれる磁場によって動力を生み出している。



2010
タグ・ホイヤー ベンデュラム・コンセプト

モノコV4での動力伝達の革命に続く、次なる挑戦は脱進機に向けられた。従来、時計の調速機構に採用されていたヒゲゼンマイをなくし、世界初の磁石を用いた振動子を採用する。現在はコンセプトの域に留まるが、すでに動作テストが続けられ、製品化も視野に入っている。手巻き。ステンレススチール・ケース、ラバー・ストラップ。価格・発売時期未定。